輝いてます！市立高校生

「堀川の奇跡」から「市立高校の奇跡」へ

「堀川の奇跡」ってご存知ですか？

堀川高では、市立高校改革パイロット校として、新学科を設置し、その1期生卒業の平成14年の進学実績が東大・京大を含め劇的に向上。全国から賞賛を受け、このように称えられました（今春249名卒業のうち国公立大133名合格）。そして、今、市立高校9校全体が堀川に続いて、輝きを増し、全国の教育関係者やマスコミから注目を浴びています。

今春の大学入試では、市立高校普通科4校（堀川・日吉ヶ丘・紫野・塔南）の4年制大学の現役合格率は、過去最高の62・9％と大きく伸びました。就職についても、学校あっせんを希望した生徒全ての採用内定を実現。特に、洛陽・伏見の両工業高校は、3年連続100％を達成しました。

魅力ある高校へさらにチャレンジ

市立高校が目指すのは、豊かな人間性の育成、個性の伸長、そして徹底した進路希望の実現です。そのため、西京の「中高一貫」のほか、塔南では「4ターム（学業期間）制」を導入、日吉ヶ丘では「日吉タイム」を設置するなど、新しい取組を次々と進めています。

特に、洛陽・伏見の両工業高校では新しい工業教育のかたちを創造するため、現在の学科を発展的に改編し、工業の基礎基本を身に付け、幅広い応用力を養う新学科の平成19年度設置に向け、今年度から改革に着手しています。また、音楽高校では創立60周年を迎える平成20年度を目標に、市内中心部の元城巽中学校跡地に移転。これを機に、京都市交響楽団、京都市立芸術大学など、音楽関係団体との連携を緊密にし、最高水準の音楽教育をさらに充実させ、世界に羽ばたく音楽家を育成していきます。

21世紀を担う子どもたちの笑顔のため、教職員のあふれる熱意のもと、市立高校は更なる前進を続けます。

英文系では英語づけの学習合宿も実施

紫野高校

「俳人協会新人賞」受賞の井上弘美教諭や詩壇の芥川賞「H氏賞」受賞の山本純子教諭など個性豊かな教諭陣のもと、「芥川賞」作家の綿矢りささんをはじめ、「俳句甲子園」優秀賞受賞者など、多彩な人材を輩出。理数教育にも力を注いでいます。

福祉ボランティア体験に取り組む生徒

西京高校

昨年度に附属中学校を開校し、中高6年間を通じて、真に社会に貢献できるリーダーシップを持った人材の育成を目指し、確かな学力と、5日間の福祉ボランティア活動等の幅広い教育活動を実践。企業経営コンテストでも全国優勝しています。

年に一度の佐渡裕氏によるオーケストラ指導

音楽高校

昨年度、佐渡裕氏や葉加瀬太郎氏、ツトムヤマシタ氏等、高い見識・実績を有する「芸術顧問」を設置し、生徒への直接指導などに貢献いただいています。日本を代表する音楽専門家の育成を目指し、高度な教育活動を展開し、京都芸大、東京芸大などへの進学実績をあげています。

全国トップレベルの演奏を披露

塔南高校

「学力と人間性の伸長・日本一」をスローガンに、「4ターム（学業期間）制」や8・9限授業の導入など様々な取組を実施。また、吹奏楽部が全国大会で好成績をあげるなど、部活動にも活発に取り組んでいます。

堀川高校

京大への現役合格率は、2年連続で全国の公立高校トップに。また、文科省「スーパーサイエンスハイスクール」の研究成果は評価が高く、新たに5年間の指定を受け、より高度な理数系教育を展開しています。

スーパーサイエンスハイスクール生徒発表

銅駝美術工芸高校

明治13年の創立以来、日本を代表する芸術家を多数輩出。昨年度からは、8つの小学科を「美術工芸科」1科に改編し、基礎学力の充実、実技力の定着・伸長を図り、4年制大学への現役合格率も大幅に向上しています。

京都の伝統工芸・漆芸に取り組む

洛陽工業高校

日本で最初の工業高校である同校では、文科省「目指せスペシャリスト」の指定を受け、大学・産業界との緊密な連携の下、先端的な技術・技能等を取り入れた教育や、研究開発に取り組み、就職・進学で輝く実績をあげています。

ハイテク機器による金属加工を学ぶ

日吉ヶ丘高校

夏季休業期間を7日間短縮することで授業時間を確保するほか、進級時に前学年の学習内容を確認し、新たな学習意欲の定着を図る「日吉タイム」を設置するなど、総合的な学力と豊かな人間性を涵養する教育を進めています。

外国人指導員の指導による国際理解教育

伏見工業高校

「まちづくり」の基盤となる技術を学ぶことができる市内で唯一の建設工学・建築学科をはじめ、我が国の産業界を担う人材育成に努めています。また、ラグビー部、サッカー部等、部活動でも多くの生徒が活躍しています。

めざせ！全国制覇。ラグビー部・サッカー部もインターハイ出場

堀川の実践を全国のスタンダードに！

堀川高校 荒瀬克己校長　中央教育審議会 教育課程部会委員に就任

この度、堀川高校の荒瀬克己校長が、文科省「中央教育審議会　教育課程部会」の委員に高校教員を代表して全国唯一任命されました。これは、全国に賞賛される高校改革を成功させた実績が高く評価されたもので、宇宙飛行士の毛利衛氏（日本科学未来館館長）やノーベル化学賞受賞の野依良治博士、小説家の阿刀田高氏、劇団四季代表の浅利慶太氏など、世界を舞台に活躍される方々と共に、学習指導要領の改定に向けての審議に参画されます。

就任にあたり、荒瀬校長は、「文部科学省から『教育改革をオールジャパンで考えてほしい』と依頼され、背筋がピンと張る思いです。教育とは、生徒が学ぶためのしかけときっかけを研究し、具体的に創出すること。そのためには、初等中等教育という12年間のくくりを、体系的に見直すことが重要であると考えています。そして、基礎基本の徹底はもちろん、発展的な内容にも踏み込みこめるものとし、21世紀を生きる市民を育てるようなものにしたい。」と熱く抱負を語りました。

堀川の奇跡とも呼ばれる学校改革を進めてきた荒瀬校長。その手腕は、これから日本の教育改革にも生かされます。

読書大好き！①

「子どもの読書離れ」とよく言われますが，4月24日の『地下鉄子ども文庫』で，周囲のざわめきをよそに読み浸ったり，エプロンシアターの登場人物との会話を楽しんだりする子どもたちの姿は，「子どもは本来，本が好き」のことばそのものです。

こどもみらい館の読み聞かせボランティア・岩永ひとみさん（京都市子ども文庫連絡会代表）に，読書活動の中での子どもたちの姿についてお話をお聞きしました。

大盛況の「地下鉄子ども文庫」

ノンタンの痛みは，私の痛み

ブランコから落ちて，耳が裂ける大ケガをしたノンタンがでてくる『ノンタンがんばるもん』（キヨノサチコ作・絵）をよみきかせに使ったときのことです。

読み始めると，子どもたちの表情がみるみるこわばるのがわかりました。この本は，子どもたちの「体の記憶」を呼びさますものがあるようで，聞いている子どもたちが体で反応を示してくれます。そして読み終わるや否や，3～4歳と思われる子が数名，私の所へかけ寄ってきて，「おばちゃん，ぼくもな，おでこのここな，縫うてもろてな，ほんでな……」「わたしもな，入院したときな……」と口々に，我先に，ケガや入院の経験を，まるで武勇伝でも語るかのように自慢げに語ってくれたのです。決して豊富とはいえない語彙の中から，ぴったりの言葉をさがしさがし一所懸命語ってくれる姿に胸が熱くなったのを覚えています。

「ノンタンがんばるもん」偕成社より

豊かな心をはぐくむ読書

この世に生まれてまだ3～4年，大きなケガや入院は，その子の人生にとって最大の試練だったのでしょう。本の中のノンタンは，そのときの自分そのものなのです。ノンタンのケガの場面が，自分自身がケガをしたときの体と心の記憶をゆり動かし，浮かび上がらせ，ノンタン（他者）の痛みを自分の痛みとして感じることを子どもは経験するのです。

他者の体の痛みに共感した経験は，他者の心の痛みにも共感できる感性が育っていくためのベースになるものではないでしょうか。

そしてまた，みんなから「よくがんばったね」とほめてもらったことで，子どもは大きな自信と自己肯定感を持つようにおもいます。経験談を語り終えた子は，皆とても晴々とした誇らしげな顔をしていました。

このコーナーでは，読書大好きっ子を育てるために，4回シリーズで，読書のきっかけづくり学校の場合・我が家の場合を掲載し，家庭で取り組むヒントをお届けします。

●子育て体験談●●●